

# まんとさく



## 公開シンポジウム開催される

平成十八年十月二十一日(土)午後一時〜四時、新見商工会館五階大会議室において、公開シンポジウム「新見市民と新見公立短大の地域交流」が開催されました。

シンポジウムの内容は次のとおりでした(敬称略)。**【パネリスト】**「新見公立短大の現状と課題」新見公立短期大学教授 宇野文夫、「新見公立短大の地域貢献」新見公立短期大学教授 古城幸子・片山啓子・井関智美、「新見公立短大の役割」新見市長 石垣正夫、「新見公立短大の知的資源」新見市議会文教常任委員会委員長 山本久美子、「若手経済人から見た新見公立短大の存在」新見青年会議所理事長 新中宏幸、「サテライトキャンパス社会実験」岡山県地域づくり顧問 仲田芳人。**【コーディネーター】**新見公立短期大学教授 宇野文夫。

今回の公開シンポジウムは、平成十五年十月十九日に「阿新地域と新見公立短期大学の将来像」をテーマとして開催されたシンポジウムを受けたものです。シンポジウムの最初に、これまで新見公立短大が地道に行ってきた地域交流の

到達点を紹介しました。また、本学と地域社会とのかわりが高く評価された例として、平成十六年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に幼児教育学科の「にのみこどもフェスタ」が選定されたこと、平成十八年度には新たに「実践力が育つ保育者養成システム―実習・ポランティア・卒後指導を軸とした体系的学習支援」(幼教・特色GP)、「大学コンソーシアムによる保育者の養成―地域社会に密着した子育て支援と幼保一元化への対応」(幼教・教員養成GP)、「地域のニーズに応える看護専門職養成―在宅高齢者支援プログラムとサービ斯拉ーニング」(看護・現代GP)が文部科学省GPに選定されたことなどを紹介しました。このような本学の取組に対して、パネリストやフロアーから以下のような貴重な意見が多数寄せられました。

短大は地域の貴重な財産であり、なくてはならない存在である。市民が短大の人的・知的資源を活用できるシステムづくりが必要ではないか。学生生活を送ったのが新見であると学生が誇ることができるような地域にすることも重要で、それが新見ブランドになる。短大の経済効果としては年間約五億円が経済界におちている。若い男女がいることで新見市のにぎわいの担い手・活力源となっている。市民と短大がお互いを知り、それを生かすように努力する必要がある。短大の情報なるべく多く地域に発信してほしい。今回のシンポジウムの成果を生かして、本学はさらなる発展を目指して邁進いたします。

発行 新見公立短期大学(岡山県新見市西方一二六三の二) ☎〇八六七―七二―〇六三四

編集 学報編集委員会

# 看護学科

平成十八年度現代GPに選定されて  
「地域のニーズに応える  
看護専門職養成」

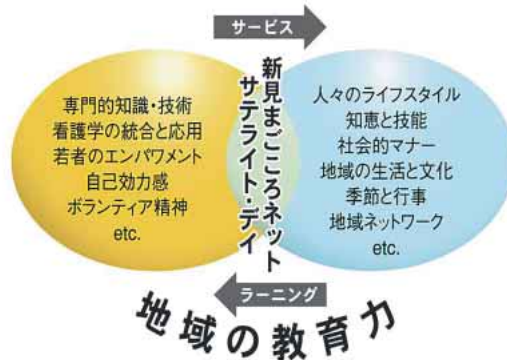
看護学科 古城幸子

今年度、現代GPに選定された看護学科の取組は、「新見まごころネット」、「サテライト・デイ」という短大の二つの地域貢献活動を、看護を学ぶ学生たちの教育の場とするサービス・ラーニングの取組です。

「新見まごころネット」は、平成十五年に開始したICTネットワークによる健康相談活動で、「サテライト・デイ」は、平成十六年に開始した高齢者の生活圏内での地域分散型デイサービスを目指した介護予防活動です。前者はインターネットを介して、後者は直接的な触れ合いによって学生のコミュニケーション能力が磨かれます。そして、地域に生活する高齢者理解を深める貴重な体験と学びの機会となり、また、参加する高齢者や支援団体との連携を通して、地域の人々の教育力を十分に活かしながら、地域住民と共に学生を育てることをめざすものです。

文科省から届いた選定理由の概略は、「本取組の注目は、第一に高齢者の居住形態の特長を的確に認識し、そこからくる地域固有の課題の解決と看護・保健教育上の目標とを緊密に結合させていること。第二は、

新見公立短期大学の既往の実践活動が前提となっており、また短大と行政機関との連携も確立されているため、実施可能性が保障されていること。第三は、医学的配慮と教育的指導とのバランスも適切であることなど、本取組はすぐれた内容を持っている」との評価をいただきました。平成十八年度後期からは、市街地にもサテライト会場を設定し、今春からは学生の実習の場として活動を始めます。地域の方々の力を借りて優れた看護専門職を育てるために、一層努力していきたいと思っています。



## 科目・授業紹介 「スポーツ実習」について

教養科 渡部昌史

今年度から看護学科の「スポーツ実習」を担当しています。

「スポーツ実習」は、個々の健康



・体力の維持を図ることはもちろんのこと、スポーツ実践を通して、各スポーツ種目の基本技能の習得およびルールやマナーについて学ぶことが目的です。さらに自分にあつたスポーツを見つけ、生涯スポーツとして、ライフスタイルの中に取り入れて実践することができると能力を培うことも目的のひとつとしています。

そのような目的を持ちながら、スポーツ実習を担当しています。

今年度のカリキュラムは、前任者の桑原先生も実践されていた、ゴルフの授業を一年次に取り入れられました。学内だけで授業を展開するのは、場所が狭い、飛距離がわからない等、問題があるため、新見のゴルフ練習場「ゴルフリバーサイド180」を利用し、学生の技術の上達につな

がっています。二年次では宿泊でのスキー実習を行い、これまでの特色ある授業を引き継いでいます。四月から授業を担当してきて恵まれていると思うことは、本学の近くには、学内では体験できない運動・スポーツができる施設があることです。たとえば、研修ができる施設として、「備北青年の家」があり、ここでは、カヌー、オリエンテーリング、ウォークラリーなどが体験できます。また、新見市健康増進施設「げんき広場にいみ」ができ、エアロビクス、ジム、プールなどが体験できます。

このように、いろいろな運動・スポーツができる機会が本学の近くにはありますので、今後はそういった施設の利用も視野に入れながら、カリキュラムに工夫を加えていきたいと考えております。そして一人でも多くの学生が、人生を豊かにするための手段の一つとしてスポーツを生活に取り入れてくれたら嬉しいのです。



絵・前田あゆみ

## 地域福祉学科

### 新見市無形民俗文化財 「土下座まつり」に参加

村中哲夫

去る十月十四日と十五日、地域福祉学科の行事として「土下座まつり」に参加した。二年生は実習中のため前泊の学生を除いて、一年生は不都合が生じた学生以外は全員が出席。昨年からの学科行事となっていたが、昨年は雨のため中止。今年は好天に恵まれ、十四日夜の湯立ての神事に始まり、翌日は短大後援会の援助で出来上がったそりの法被姿で子供神輿一台を女子が担当。二人の一年生男子は武器行列に。人手が足りない氏子町の重たい神輿には力強い女子、男子が共に協力した。更に最後尾には女子による笛と鉦によるお囃子を先頭に「サーサイ、サーサイ」と即席の道行の列を作った。二人の二年生男子は獅子頭を担当し、子供たちの健康を願って頭を噛みまわっていた。男子は全員、当日に吉村、松本、松永先生たちの手で顔を奴に化粧され参加。さて、地域福祉学科の教育理念を体感できたかな。それぞれの胸のうち。

### 御神幸武器行列に参加して

一年次生 居倉央実

今年、新短生として初めて御神幸

武器行列に参加させていたいただきました。私は、「御囃子隊」の鉦を打たせてもらいました。千種の笛と中津の鉦の音をコラボレーションして練習しました。当日は、「短大方」と背中に書かれた法被をはおり、はちまきをしめる等、皆が祭りの雰囲気味わうことができました。

伝統文化に触れること、また地域の方々と交流ができたことは、私たちが学んでいる「介護」に活かせる貴重な体験となったように思います。来年は、より伝統継承のお手伝いになる参加をしていきたいと思っています。

### 介護観を高めてくれた「祭り」

一年次生 西部末莉

祭りには新短の地域福祉学科の学生として参加し、地域の人と共に地域行事に取り組むことができました。古くからこの地域に根付いた祭り。この祭りに参加することで、新見地域の文化や歴史、また人々の温かさに触れることができ、よい学びとなりました。実際に地域に出て、自分の体験として学ぶことで、自分の中で、自分の観の高まりを感じました。



## 母校自慢

第5回

### \*岡山県立林野高校

一人ひとりが大切に

一年次生 本山 舞

林野高校は、来年度で創立百周年を迎える歴史ある高校です。進学校ではありますが、部活動やボランティア活動が盛んです。また先生方も大変熱心に指導してください。

林野高校の特徴は、教員と生徒の仲がとてよいことです。いつも放課後の職員室は、質問に来た生徒でにぎやかになります。また、担当教科以外も積極的に教えてくださいます。「先生を利用しない！」というのが、先生方の口癖でした。質問に行かなければ、逆に先生の方から「どうして質問しに来ないの」と声をかけてくださいます。それほど先生方が、私たち一人一人の事を気にかけてくださっていることが実感できます。これが勉強への意欲を高めていると思います。私は、林野高校に通うことが楽しかったですし、好きでした。高校受験を控えている人たちにお勧めしたいくらい大好きな高校です。

### \*鳥取県立倉吉西高校

笑顔の絶えない、自慢の母校

一年次生 清水菜緒実

私の母校の自慢したいところは、先生と生徒の仲が本当に良いことです。個性豊かでおもしろく、親しみやすい「友達先生」がたくさんおられ

ました。

某人気アイドルと同名同名の先生、生徒から親しみをもってあだ名をつけられた「善」先生：など、休憩時間や放課後は、先生と生徒の笑いが絶えませんでした。本当に友達のような関係と生徒が思うくらい先生が私たちに接してください。

仲良くしていただいた分、卒業する時はとても辛かったことを覚えています。先生方との思い出など母校を振り返ると、今もときどき恋しい気持ちでいっぱいになります。

### \*鳥取県立矢上高校

寮生活も経験しました！

一年次生 岡本朋子

私の通っていた高校は普通科二クラス、産業技術科一クラスの一学年三クラスと小規模校です。産技クラスは、牛を飼ったり、田植えや稲刈り、加工品作り等様々な取組を行っています。小さい学校なので、皆が仲良く、先生方とも仲良しです。おもしろい話をしてくれる先生、方言が強く聞き取る事が難しい先生等ユニークな先生ばかりです。

私は三年間寮生活をしていました。寮での生活はとてものしく、様々な行事もあります。いつもにぎやかでした。

学校生活は、友達や先生のお陰で、中身の濃い、楽しい三年間でした。

# 幼児教育学科

平成十八年度  
**特色ある大学支援  
 プログラムに採択される**

幼児教育学科では「特色ある大学教育支援プログラム（特色G.P.）」に、「実践力が育つ保育者養成システム―実習・ボランティア・卒後指導を軸とした体系的学習支援―」という取組が採択されました。

本取組は、多様化・複雑化する保育・子育て・幼児教育の問題などに対応可能な高い実践力を学生に身につけさせることを目的とした本学科の教育活動をまとめたものです。

その内容は卒業生の皆さんも存じのとおり、入学から卒業後まで一貫した体制での指導や個別指導の実現、地区担当制などであり、きめ細やかな実践とそれによる高い教育効果が評価されました。この採択は我々にとつて大いに励みとなるものです。これからも、学校教育と現場実践との有機的連携や効果的なシステムへの修正や変更を常に行いつつ、保育・福祉・幼児教育現場においてより良い実践を行える保育者養成を目指して努力していきたいと考えています。

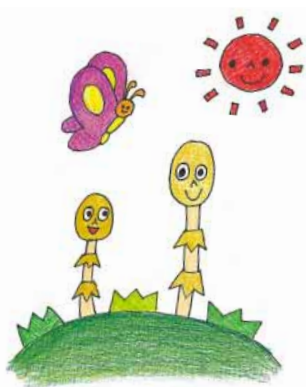
平成十八年度  
**資質の高い教員養成推進  
 プログラムに採択される**

今年度、幼児教育学科は、特色G

Pの他に「資質の高い教員養成推進プログラム（教員養成G.P.）」にも採択されました。これは、質の高い幼稚園教諭を養成するための二年間のプロジェクトです。少子化が進む時代と教育現場・地域のニーズに対応できる専門的力量と実践力を備えた幼稚園教員の養成を目的としています。

特徴的なのは、本学単独ではなく岡山県内保育者養成大学九校による大学コンソーシアム（地域大学間連携機構）での取組である点です。

昨年十二月には九大学学生による「教育実習合同発表会」を開催しました。ポスターセッションを通して、実習で悩み喜んだ経験を他大学の学生と共有することができたり、大学ごとの学び方の違いを確認することができたりして、有意義であったと思います。他にも、シンポジウム、講演、フォーラムなどを開催しました。今年も同様の企画が開催されます。講演などは卒業生の皆さんも無料に参加することができしますので、ぜひ参加してください。



絵・前田あゆみ

## 中・四国保育学生研究 大会に参加して

一年次生 井田加寿美

私は中・四国保育学生研究大会に参加して、保育士のあり方について考えさせられました。保育所実習の事例研究発表は、私達とは違った事例研究ですごく興味深い話でした。

保育の現場では、子どもを一人の人間として認め、しっかりと向き合っていくことが大事だということ、そして、子どもの気持ちを受け止め、その時の発達や状況に合った対応によって、情緒の安定を促し、安心感を与えることができるということも学びました。

また、子どもはどのようなときにどんな約束を守るのか、約束を守る時や破るときにはどんな理由があるのか、という心理学に関する研究では、保育士として子どもの心理を読み取り、子どもの気持ちになって物事を理解していくことの大切さを学びました。子どもの気持ちに寄り添って物事を考えることで、保育士と子どもとの間に信頼関係が築かれていくと思います。

歌と身体表現の発表では、先輩方の表現力に驚きました。歌と歌の間に短いセリフを入れ、全体がきれいにまとまる様に工夫され、雨や晴れの天気によって引き起こされる気持ちや気分が曲で表現されていることに感激しました。先輩方は、一つ一つの曲にイメージをつけ、楽しい感じの曲であれば弾んだ感じに、悲し

い曲であれば寂しそうに歌い、喜怒哀楽の感情表現が私たちに率直に伝わってきました。感情表現だけでなく身体表現にも工夫が見られ、楽しい感じであれば動きを素早くしたメリハリのある振り付けが選ばれ、悲しい曲であればゆっくりとした動作を用いて表現されていました。

保育士は常に子どものことを第一に考え、表現することの楽しさを子どもに伝えていかなければならない存在です。そのために、まずは自分の表現力を高めることが必要です。これから現場に出て子どもに指導していく者として、自分自身の表現の技術を高めることは、子どもの表現力を高めることに繋がるのではないかと考えます。



地域看護学専攻科

公衆衛生看護研究発表会  
を終えて

野々瀬 由佳

平成十八年十二月二十一日に公衆衛生看護研究発表会を行いました。初めて研究に取り組む人や継続研究をした人など、それぞれ経験に差がある状況からのスタートでした。短い期間かつ多忙なスケジュールの中でも、内容の濃い研究を目指し取り組んできました。研究の内容を深めていく中で、様々な疑問や不安が生じました。自分だけでは解決できず、研究に行きづまることも少なくはありませんでした。このような中で、専攻科の先生方をはじめ、他学科の諸先生方にも助言を頂くことができ、自分たちの納得のいく研究をまとめることができました。

発表会は、先生方のご指導や学生同士の意見交換の中でよりわかりやすく、充実した内容の発表になったと思います。公衆衛生看護研究を通して、研究の方法を身に付けることができました。また、看護の理念や技術を高めていくためにも今後さらに研究を継続し、自己研鑽をしていく必要があることを実感しました。

黒川 亜莉沙



研究の方法を学ぶと共に、人としても成長できたのではないかと思います。研究においては、関係機関や地域の方々をはじめ、大勢の方に協力いただき、自分たちの研究を完成させることができました。テーマの決定から発表に至るまでの間には、戸惑いや行き詰まることも多々ありましたが、一年を通してご指導してくださった先生方、共に悩み支えてくれたクラスメイトがいたことで無事乗り切ることができました。ご協力いただいたいたすべての方々から感謝したいと思います。

研究の締めくくりである公衆衛生看護研究発表会では、七分間の中でそれぞれの学びを共有することができました。七分間という短い時間の中で、人に伝えることの難しさも感じましたが、母子・成人・高齢・学校・産業における様々な分野の研究を聞くことができ、自分の視野を広げることができたと思います。一年間を通して得たものを今後活かせるように、探究する心を忘れないようにしたいと思います。

同窓会の  
コーナー

看護学科第四期生  
新居浜市十全総合病院勤務

鈴木(旧姓井上)和恵



昨年六月、私は二十年ぶりに新短を訪ねました。看護師不足のご時世、母校から是非うち

の病院へ就職していただきたく……(を建前に)。あの頃、木造校舎にあった食堂や学友会室。新しい校舎や設備を拝見させていただき感慨深いものがありました。あの頃、ストレートの長い髪が印象的だった古城先生、今も健在だった岡山弁の逸見先生。お会いできて、とても懐かしくうれしく感じました。

あれから二十年、今もこうして看護師をしていることが不思議に思えます。学生時代は、よく遊びよくはしゃぎ、国家試験のために少しまじめに勉強もしました。先生方や先輩や友人たちに励まされたことを思い出します。長い坂道を上り、桜の木が見えるあの校舎が私の原点、そう思えます。

愛媛に住む私にとつてなかなか新短を訪ねる機会もないのですが、今度は同期の友人たちと訪ねてみたいと思います。その時もどうぞ

よろしくお願いします。

◆第一回関東支部同窓会開催  
看護学科第十六期生

大倉亜希子

平成十八年十一月十八日、品川で第一回関東支部同窓会が開催されました。参加者は卒業生九名と難波学長・石田先生・金山(時)先生でした。全学科に声をかけたものの最終的に参加したのは看護学科だけでした。一期生一名、八期生一名、十六期生三名、二十一期生一名、二十二期生三名です。当初支部会の話をいただいたときは面識もないのにどうやってまとめて行くのか不安でしたが、実際お会いしてみると初対面にも関わらずすぐに打ち解け、懐かしい新短の思い出話に花が咲き、またお互いの病院の情報交換など時間はあっという間に過ぎていきました。本当は看護以外の学科の方にも是非参加していただきたいのですが残念です。新短は岡山にあるので関東近辺に出てきている方の人数は他の地方よりも少ないのが現状です。それでも今後の情報交換や卒業生への情報提供などのネットワークになればと抱負を語りました。今回の幹事は私がさせていたいただきましたが、支部会長に一期生の永田さんが就任されました。今後の活動は未定ですが、少なくとも年単位では開催していきたいと考えています。今後、この支部会をさらに盛り上げて全学的なつながりが持てるようになることを望んでいます。

# 平成十八年度 卒業研究テーマ一覧

## 【看護研究】看護学科

### 国際的な看護と現状について

● 国際協力における看護学生の意識調査  
岡田 翔子

● カンボジアの子どもの現状と国際交流で私達にできること〜カンボジアスタディーツアーを通して〜  
鋸持 千裕

● 日本と諸外国の療養環境の違いについての一考察〜アメリカ合衆国の小児施設とファーストフード店との関連〜  
香川 尚子

● 街頭観察による日本と中国の衛生行動の比較  
菊池有里子

### 看護学生の健康管理

● 看護学生の食生活の実態と問題点〜アンケート調査より〜  
三宅恵里香

● 看護学生の自己の健康管理状態と基礎体温測定〜アンケート調査を通して〜  
西田 えり

### 口腔ケアについて

● 歯ブラシの形状の違いによる歯磨き効果の検討  
森脇 未菜

● 経口摂取が困難な患者への口腔ケアの効果について  
木田 晶子

### 笑いの効果

● 看護師との関わりによる患者の笑い  
伊野奈美枝

● 医療現場におけるクリニクラウンの有用性〜クリニクラウンの活動を通して、笑いや笑顔がもたらす効果について考える〜  
岡村 麻美

● 医療現場における笑いとユーモアの効果と影響〜文献研究を通して〜  
矢部 清香

### 家族看護について

● 慢性疾患の子どもをもつ母親への看護〜母親が子どもの病気を知ってからの思いとその変化を焦点に〜  
西川 葵

● 気管支喘息患児の生活管理および発作の対処に関する保護者の認識  
難波えりこ

● 小児がんの児をもつ母親の心理状態について  
大岡 純子

● 危機状態に陥った患者を支える家族力  
柏内 里絵

● 在宅認知症高齢者の主介護者が「家族の会」に参加することの効果  
井畑 彩

● 介護上の問題とその対処プロセスにおける緩和要因〜介護経験者へのインタビューより〜  
中山 英美

### 実習を通しての振り返り

● 自己の振り返り〜受け持ち患者との関わりを通して〜  
谷口未奈子

● 患者のつらい気持ちを受けとめられなかった場面の考察〜プロセスレコードによる自己の振り返り〜  
浜崎 裕美

● 「相手を理解するためのコミュニケーション」の一考察〜成人看護学実習を通してプロセスレコードによる自己の振り返り〜  
坂本 祐美

● 援助的人間関係形成のために求められる看護士の対応  
児嶋 美希

### 女性の健康に関するもの

● 婦人科外来を受診する短大生の心理と看護士に求められる対応  
三浦 礼子

● 十代初産婦における心理社会的問題と支援  
志賀 恵

● 妊婦の食生活の変化とその影響要因  
甲野 恵

● 中年期女性にみられる空の巣症候群について  
朽網亜由子

### 基礎看護に関するものについて

● 布製タオルに付着したタンパク質性汚れのニンヒドリン発色法を用いた検出と定量化  
倉田 亜海

● ベッドサイドにおける看護士のポジショニングの検証  
増井 淳子

● こんにゃく温電法を試みての保温性・心理的効果の検証  
山本 望聖

● 腋窩冷電法に効果的な溶液の選択  
田井中 恵

### 看護士の関わり方について

● 小児病棟における看護士と病棟保育士との協働〜育児相談・育児サポートの視点から〜  
岡本 敦子

● 服薬自己管理できない患者とその家族に対する服薬指導のあり方  
岩井 裕子

### 情報をもたらす影響について

● 看護士のインフォームドコンセントに対する意識について〜インフォームドコンセントは誰がするものか〜  
松尾 佳奈

● アメリカでの患者の個人情報に関する看護士の意識調査  
能田 聖子

● ゲーム脳はなぜ信じられたのか  
勝保 暁

### 死生観について

● 看護学生と看護士の死生観の傾向と変化〜死生観尺度による調査より〜  
石田 佳世

● 看護学生と幼児教育学生の死と生の意識〜死への準備教育について〜  
宮本万由美

### 女性看護について

● 経口避妊薬に対する母と娘の意識の相違  
安藤 有加

● 婦人科良性疾患患者の心理状態と看護士の対応〜子宮筋腫・内膜症体験者のA患者会への参加を通して〜  
川上 良子

● 産婆から助産婦そして助産師へ〜母性看護の歴史から学ぶこと〜  
原 恵美

● A短期大学看護学生の性行動とヒトパピローマウイルスに関する認識と意識調査  
脇坂佳寿子

### 在宅看護について(その1)

● 家族が在宅介護することの意味〜パーキンソン病患者の介護者Aさんの在宅介護の体験をインタビューして〜  
田根けい子

● 訪問看護士が行うグリーフケアの実際  
津野地裕子

### 高齢者について

● 看護学生における「高齢者の性」に対する意識〜看護学生の傾向と比較を通して〜  
大西 晶子

● グループホームの認知症高齢者の生活史を対応に活かすことの意味〜ケアスタッフの対応により認知症高齢者の安心や納得が得られた場面に注目して〜  
高橋さおり

● 嚥下障害のある高齢者の栄養摂取方法について〜ソフト食の試食によるアンケート〜  
堺 彩子

● 認知症をもつ高齢者の自己決定を支える看護とは〜グループホームで暮らす認知症高齢者との関わりから〜  
藤井 歩美

● 体動制限時のストレスと視覚的・聴覚的刺激による緩和効果〜健康な女子学生での検討〜  
三好枝理子

● 小児看護学に関するもの  
NICUにおける環境整備の重要性  
内山 裕理

● 乳児院における看護士の役割〜基本的信頼感を形成する関わりの実際〜  
宮城加容子

●キャリアオーバーと成育医療について考える 峯本 あゆ

■精神看護学に関するもの

●精神病に対する高校生のイメージと社会的態度 安部 綾乃  
●看護学生の精神障害者観に対する意識の比較 西山 陽子  
●統合失調症患者の社会復帰への効果的アプローチ 日吉 純子

■在宅看護について(その2)

●高齢者の在宅生活を支えるサービスの実際と連携の必要性→インタビューを通してこれからのサービスのあり方を考える  
●在宅における食事介助の現状と看護師の役割 守本 麻莉 魚崎亜矢子  
●訪問看護師のストレスとやりがい 千葉衣利子

■高齢者の生活支援

●高齢者の心理に与える阪神・淡路大震災の慢性的影響と看護の課題→被災した高齢者のインタビューから  
三村 彩果  
●在宅高齢者と若者との世代間交流の意義 児玉 貴恵

●施設で生活する高齢女性がお化粧をする意味→化粧療法の効果→ 大島 美里

●終末期看護について  
●終末期における家族の葛藤と看護→病名について知っていた家族と知らなかった家族へのインタビューを通して  
春日 詩織

●終末期患者の希望を支える看護を目指して→成人看護学実習の一事例から  
金澤 奈奈

●終末期患者の家族の心理と援助 山野 知里

■指導教員 専門基礎：宇野文夫

基礎看護：杉本幸枝・土井英子  
成人看護：逸見英枝・金山弘代・真壁幸子・白神佐知子

老年看護：古城幸子・木下香織  
小児看護：上山和子  
母性看護：貞岡美伸・岡博美

精神看護：小野晴子・岡本亜紀  
地域看護：栗本一美・掛屋純子

【総合研究】幼児教育学科

■社会福祉 指導教員 東 俊一

●虐待防止に関するCAPプログラムの検討 岡田麻友美

●知的障害者の地域生活支援に関する支援員の意識調査 河野奈緒美

●統合保育実践に対する現状の支援と課題 佐藤 真美

●地域生活をする知的障害者の主体的本人活動に関する検討→本人部会の活動調査より  
篠森友里恵

●児童虐待に繋がる社会的要因の検討とその改善について 高溝 優貴

■教育学 指導教員 矢藤誠慈郎

●「ゼロ・トレランス」方式の教育的意義に関する研究 田中真祐子

●地方自治体による子育て支援のウェブサイトの分析と考察 中谷 美香

●「専業主婦」の成立と変遷 長尾真梨子

●保育所における保護者懇談会の運営に関する研究 長島 麻衣

●認定こども園の成立過程に関する研究 堀内 彩加

●メキシコのストリートチルドレンに関する研究→日本の児童自立支援施設入所児童との対比から  
屋敷あすか

■乳幼児保育 指導教員 三好年江  
●保育所における病後児保育の推進に関

する研究→A市の現状調査から  
赤松 可那

●異年齢保育における中間的存在としての四歳児に関する研究 寺田 磨代

●乳児の「食」に対する保育士のかかわりについての研究 松尾 沙季

■音楽 指導教員 安達雅彦  
●ミュージカル「しらゆき姫」 青木 裕子・上田 恵利

●アメリカでの実践から見るレッジョエミア研究 浅岡 海悟

●素材と仕掛けから見る布絵本の一考察 藤原 小春

●絵本における色と形の研究 栗原 絵美・前田あゆみ

●小児病棟におけるプレパレーションの理解と保育士のかかわり 吉岡 裕子

■発達心理学 指導教員 石橋由美  
●五歳児保育における「要求」からはじまる協同的な学び 赤頭 知里

●幼児の語りに表現された感情と社会的関係 井手原佳美・奥田 千裕

●二歳児クラスのごっこ遊びにおける自発的集団遊びの発生過程について→遊びの伝染と動作の共有体験から集団遊びへ  
瀬畑 佳織

●保育実践分析：きもだめしコースの選択における五歳児の感情の揺さぶられ経験 松村久美子

●働く母親に対する保育所の子育て支援→子育ての楽しさを感じられるように  
森岡 真菜

■幼児体育・身体表現 指導教員 片山啓子  
●子どものための舞踊作品の構成と演出

創作ダンス「忍者☆参上！」  
上田乃生子・海老根実季

●乙武洋匡の生き方についての一考察→著書「五体不満足」を中心に  
吉川 実希

●子どもにとっての方言とは→紙芝居の読み聞かせを通して  
矢野真理子

●子どもの思いやりの育ちについて 山田 明香

●いのちの大切さを伝える保育→「死」とのかかわりを通して  
吉見 愛

■環境 指導教員 斎藤健司  
●動物園における体験型プログラム→幼児を対象としたプログラムの現状と課題  
佐伯奈穂美

●保育における自然環境教育→保育士養成校で学ぶ学生の実態調査より  
杉山 順子

●外来生物と子どもたち→幼児教育を通じた啓発について  
田村 祥

●日本の環境教育の成り立ちと現状→諸外国との比較を通して  
吉田 将人

【地域福祉学科】

■指導教員 伊藤康博

●S町の高齢者意識調査と今後の町の展望→地域でお年寄りの身になってさりげなく支え隊  
長谷川栄美

●「全国県民意識調査1996」にみる日本人の宗教観について 小林 加世

●鳥取の昔の遊び 佐々木ちひろ

●指導教員 井関智美  
●施設高齢者の生活のあり方について、集団ケア施設とユニットケア施設での体験から、  
日野祐美子

●指導教員 村中哲夫  
●「ありのまま」を援助する「精神障害者の自立を考えて」、阿部 祥之  
●生活の中での人間と動物との関わり、アニマルセラピー、介護を軸として、石原真由美

●私の介護「高齢者と化粧」、岡田奈々恵  
●認知症の理解に向けて「症状から「人へ」、西部 未莉

●指導教員 吉村淳子  
●レクリエーション活動が与える気分の変化に関する一考察、藤田はるか

●指導教員 松本百合美  
●入浴介助の現状を知る「施設へのアンケートによる実態調査から」、瀬戸 綾香  
●園芸療法の効果「事例を通しての検証」、藤田 奈己

●指導教員 大竹晴佳  
●認知症高齢者のコミュニケーション「独り言からの考察」、笹部 有希

●指導教員 松永美輝恵  
●介護技術「洗髪」における技術習得プロセス「効率的な習得方法の検討」、富永 愛子

【公衆衛生看護研究】

地域看護学専攻科

●指導教員 福岡悦子

●若年者の血液の比重不足からみた食行動の実態と今後の課題、田中 紀子

●高校生の生活習慣に関する調査「普通科と看護科の比較」、徳永 友紀

●病院勤務看護職者における喫煙行動と意識「職業性ストレスとの関連を通して」

●労働者の職業性ストレスと睡眠健康の関わり「A企業の労働者へのアンケート調査結果から」、野々瀬由佳

●A企業における生活習慣病への意識と実態調査「メタボリック症候群の指標とあわせて」、上林絵里奈

●指導教員 金山時恵  
●里親の現状と課題「里親の気持ちに焦点をあてて」、金平みずえ

●児童虐待の現状と課題、杉尾 瑠里  
●祖父母に対する孫育て支援について「アンケート調査を通して」、前田 和美

●児童の登下校中の安全対策とその課題、芳野 文香  
●学校保健と地域保健の連携における現状とその課題、西村 敬子

平成 18 年度 進路状況

(2月21日現在)

学科	内訳	卒業者数 (人)	専門職 (人)	一般職 (人)	進学 (人)
看護 [25期生]		63	41	0	22
幼児教育 [26期生]		51	38 (11)	0	2
地域福祉 [10期生]		51	40 (7)	1	3
地域看護専攻科 [3期生]		16	16	0	0

( ) 内は、希望しているが決定していない人数

●高校生の精神障害者に対するイメージ調査「普通科と看護科の学生の比較」、武部 真理

●高齢者の主観的健康感とその関連因子「A市老人クラブ参加者へのアンケート調査から」、黒川亜莉沙

●指導教員 矢庭さゆり  
●A市健康増進施設の利用状況からみた保健師の役割と課題、武井智恵子

●A市ふれあい・いきいきサロンを利用している高齢者の転倒予防に対する認識と行動、斎川登志子

●A市における独居高齢者のソーシャルサポートの現状と課題、松野 智江  
●独居高齢者の薬に対する認識と服薬の実態「A市における在宅高齢者の聞き取り調査を通して」、川畑 薫子

慶事のお知らせ

本学看護学科の杉本、金山(時)助教授、土井講師他五名が、論文「山間地域に暮らす高齢者の健康と医療に関するニーズ調査」で第二回日本遠隔医療学会学術大会の優秀賞を獲得されました。また、幼児教育学科の岡本(直)講師が彫刻作品で第三十八回日展に入選されました。記して慶祝の意を表したいと存じます。



絵・佐伯奈穂美



今年も暖かい季節がやってきます。春の訪れは人をワクワクさせます。

今年度は、本学看護学科が「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に、幼児教育学科は「特色ある大学教育支援プログラム」と「資質の高い教員養成推進プログラム」に選定されるといふ輝かしい出来事がありました。

また、「新見市民と新見公立短期大学の地域交流」と題した公開シンポジウムでは、三年前に掲げた「キャンパスシティー」構想に対する本学の取組について、地域の方々と実りある対話をし、充実した時を持つことができました。

厳しい時代だからこそ「人」の時代。これからも卒業生、在学生、地域の方々のご支援をいただきながら、素晴らしい人材の育成に尽力していきたいと考えています。(岡本)

編集委員

委員長

- 原 逸田
- 山 見田
- 矢 内 英
- 岡 庭 さゆり
- 松 直 圭
- 村 美 穂
- 田 永 直 穂
- 二 美 穂
- 郎 恵 郎